

設定時間、設定場面、設定状況。体験的、実践的な避難訓練にするための改善の視点

学校から歩いて30分ほどのところにある消防署で校外学習を行っていたところ、突然、大地震が発生。その後、学校の近くで火災が発生したことが判明し、帰校を断念、避難場所への避難を行う。

- 【A-オ】校外での学習活動中
- 【C-(2)-オ】一時集合場所や避難場所等まで避難する訓練
- 【C-(3)-イ】消防署員等の防災関係者による避難訓練等実施後の講評や、防災講話を設定

1 時間・場所等

午後10時30分、消防署見学の最中に大地震が発生する。学校の近くで火災が発生したため帰校を断念し、避難場所への避難を行う設定(計55分間)

2 避難訓練の時系列及び児童・生徒及び教職員の動き

| 時間等 | 設定状況等 | 児童・生徒の動き等 | 教職員の動き |
|-----------------|---------------------------------|--|--|
| 前日まで | ●消防署見学に続き、避難訓練を行うことを児童・生徒に予告する。 | ●消防署見学の後半に避難訓練が実施されること、その後、避難場所まで避難することを理解する。 ●防災教育補助教材「3. 11を忘れない」を活用し、一時集合場所、避難場所、避難所の違いについて理解する。 | ●管内の消防署に、消防署見学と避難訓練への指導・助言を依頼する。その際、避難場所への避難誘導についても要請する。 ●学年便り等に、校外学習において避難訓練を実施することについて記載し、保護者への周知を図る。 |
| 10時30分 | ●消防署見学の最中、震度6弱の地震が発生 | ●消防署内で、各自、避難行動をとる。 ●「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に避難する。 | ●「訓練、訓練。地震発生。各自、自分の身を守りなさい。」と指示する。 ●点呼を行う。 |
| 10時35分 | ●学校の近隣から、火災が発生 | ●火災により、学校に戻ることができないため、避難場所に避難することを理解する。 | ●避難場所に避難することを伝える。 ●消防署員から、実際の震災時には、垂れ下がった電線を避けること、がれき等がないところを選んで歩くことを説明してもらう。 |
| 10時40分 | ●避難開始 | ●車に気を付けて移動する。 ●足下に気を付け、周囲の様子を確認しながら歩くようにする。 ●私語をしないように心掛ける。 | ●「おかしも」の約束を確認した上で、避難を開始する。 |
| 11時15分 | ●避難場所に到着 ・人員点呼 ・避難完了 | ●速やかに点呼ができるよう、静かに整列する。 | ●管理職に連絡し、避難場所に全員無事に到着した旨報告する。 |
| 11時20分 (5分間) | ●講評 | ●消防署員の話聞く。 | ●消防署員から、本日の避難訓練の様子や、避難場所への避難の様子について、講評をしてもらう。 |

※ 本実施計画は、小学校4年生を対象として設定した。幼稚園や小学校の低学年においては、一時集合場所までの避難を想定してもよい。

※ 学校便りや学年便り等に、一時集合場所、避難場所、避難所の位置を掲載し、保護者等への啓発を図る。